

平成26年度 学校経営計画に係る自己評価計画書

石川県立翠星高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 地域の環境問題に積極的に関わる意欲と態度を育成する。	① ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さについて理解を深めるために講演会、研究発表会等を実施する。	全職員 各年次 各コース 各研究会	昨年度のアンケート調査で「里山里海の大切さが理解できた」と答えた生徒の割合は55%で、個々の生徒の取り組み意識が大変低い。年次、コース等での具体的な取り組みが望まれる。	【満足度指標】 ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さを理解する。	里山里海保全の大切さが理解できた生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	② 校内環境美化に積極的に取り組む。	保健課 特活課 各年次 各分掌 各コース	生徒会のマナー環境美化週間の活動や保健委員会の美化活動の成果により、「校内の環境美化に積極的に取り組んでいる。」と答えた生徒の割合が73%となった。今後も、学校全体での継続的な取り組みが望まれる。	【成果指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいる。	校内の環境美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
2 学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けてキャリア教育の充実・強化に取り組む。	① 10分間の朝学習（翠星タイム）を実施し、基礎学力等を身につける。	教務課 各年次 各教科	昨年度のアンケート調査では「基礎学力が身についた」と答えた生徒の割合は62%であった。今後は、朝学習の学習内容の検討を行うとともに、基礎学力定着のための学習計画の確立が望まれる。	【成果指標】 朝学習（翠星タイム）に取り組む、基礎学力を身につける。	基礎学力を身につけることができたと思う生徒の割合が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	② 生徒の授業評価や研究授業、互いの授業参観を通して、授業の工夫・改善を図り、「分かる授業」に積極的に取り組む。	教務課 各教科 全教員	昨年度の調査では「授業が分かりやすい」と答えた生徒の割合は72%で、一昨年度より低い数字であった。今後は、積極的に互見授業を推進し、授業の工夫・改善に取り組む必要がある。	【満足度指標】 分かりやすいと満足している生徒が増えている。	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	③ 3年間を見通し、各年次に応じたキャリア教育を積極的に展開し、全員の進路実現に取り組む。	進路指導課 各年次 各学科	農業の専門高校として、資格取得を推進し、生徒の職業意識をさらに向上させる必要がある。	【成果指標】 個々の生徒が積極的に資格取得へチャレンジしている。	資格取得にチャレンジした生徒の総数が A 400人以上 B 300人以上 C 200人以上 D 100人未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	教務課による集計

平成26年度 学校経営計画に係る自己評価計画書

石川県立翠星高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3 社会人として必要な生活習慣や規範意識、マナー等の向上に取り組む。	① 生徒が自発的に挨拶を行うように、授業や登校指導において挨拶の指導を行う。	生徒指導課 全教職員 各年次	昨年度のアンケート調査では「マナーが向上した」と答えた生徒の割合は78%であった。今後も、継続的に粘り強く挨拶等の指導が必要である。	【成果指標】 自発的に大きな声で挨拶ができる生徒が増加している。	自発的に大きな声で挨拶ができたと答えた生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	② 基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	昨年度の遅刻者数は、一昨年度の約二倍の数であった。今後は、保護者に協力を呼びかけるとともに、登校指導などを学校全体として取り組み、生徒の意識を高める必要がある。	【成果指標】 基本的な生活習慣が身につく、遅刻者が減少している。	前年度に比べ、遅刻者の減少割合は A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	生徒指導課による集計
	③ 交通安全指導の充実を目指し、教職員全員で登校指導に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	昨年度、自転車の二人乗り等で街頭指導を受けた生徒の数は一昨年度より140件程度減少し、163件であった。今後も、継続的な指導が望まれる。	【成果指標】 交通マナーで街頭指導を受けた生徒が減少している。	前年度に比べ、街頭指導を受けた生徒の減少割合は A 30%以上 B 20%以上 C 10%以上 D 10%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	生徒指導課による集計
4 部活動など課外活動への積極的な参加を促し、活力のある学校づくりに取り組む。	① 講習会、講演会などを積極的に取り入れ、部や研究会活動の活性化に取り組む。	特活課 農業クラブ 全教職員 各年次	昨年度のアンケート調査で「部や研究会活動に積極的に活動している」と答えた生徒の割合は69%で、一昨年度より7%向上した。今後も、部活動への全員加入等の継続的な取り組みが望まれる。	【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。	部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	② 農業クラブ活動の活性化を図り、全国大会への出場者増加に取り組む。	農業クラブ 農業科 各研究会 各コース	昨年度、農業クラブ全国大会への出場者は、農業鑑定競技4名、農業情報処理競技2名の合計6名であった。今後は、農業クラブ活動活性化のための計画的な取り組みが必要である。	【成果指標】 農業クラブ活動が活性化し、全国大会への出場者が増加する。	農業クラブ全国大会への出場者は A 16名以上 B 11名以上 C 6名以上 D 学校枠の5名のみ	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	全国大会の出場者数を確認。